

火災通報装置

(応答確認ランプ付)(音声ロムパック別)
(BGF1181)

火災通報専用電話機

(BGT1192)

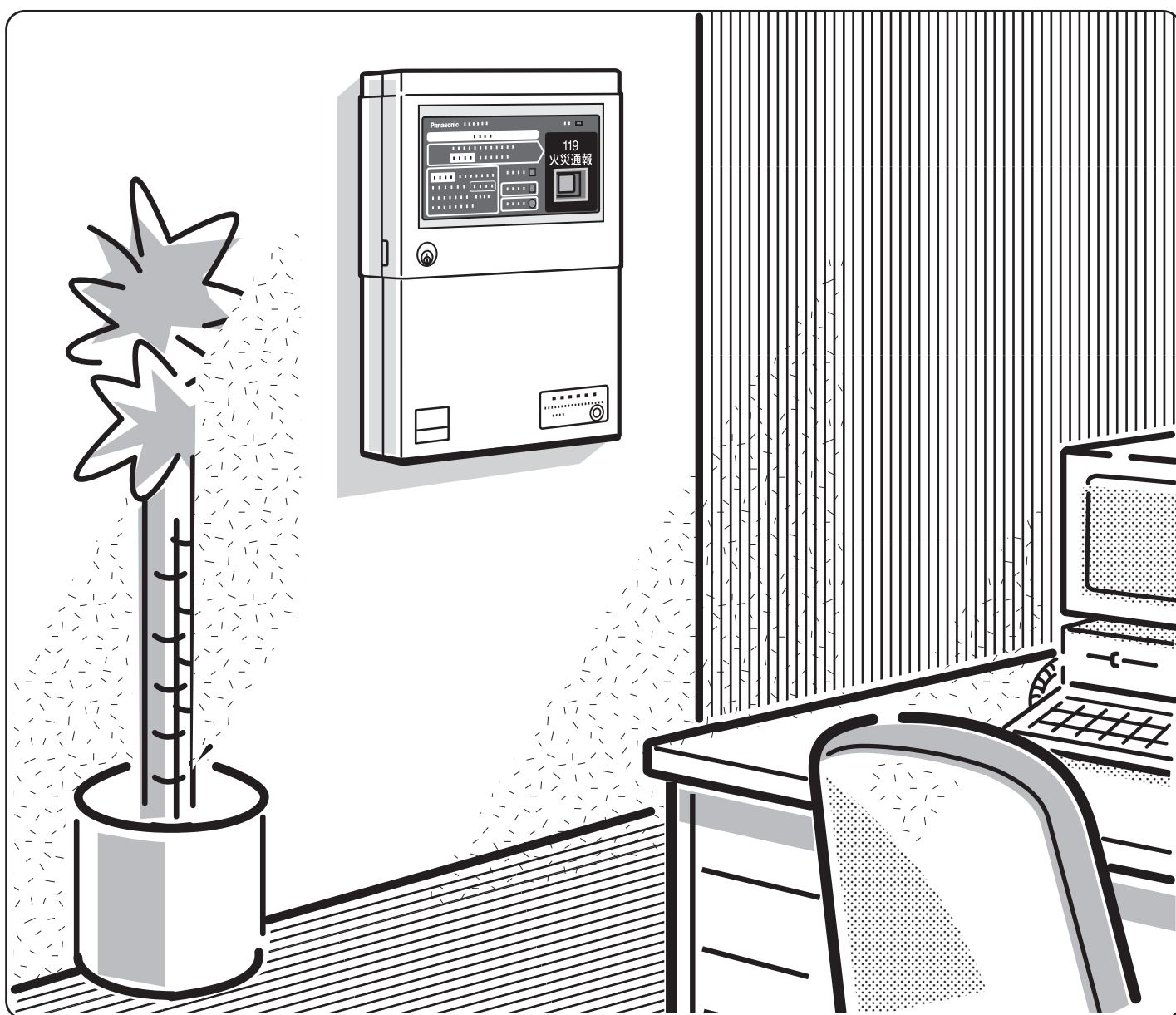
平成28年4月改正告示適合品

施工説明書

保管用

屋内専用

- 正しい施工をしていただくために必ずお読みください。



施工される前に

- 施工するには、電気工事士・消防設備士(甲種第4類)・電話工事担任者の資格が必要です。
- 施工後、必ず施主様に商品説明をしていただき、取扱説明書と施工説明書などをお渡しください。
- 万一、施工説明書にしたがわず施工された場合は責任を負い兼ねることがあります。
- 火災などによる損害については責任を負い兼ねますのでご了承ください。

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や物的損害の程度を区分して、説明しています。

 警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
 注意	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の記号で説明しています。(次は図記号の例です。)

	してはいけない内容です。		実行しなければならない内容です。
---	--------------	---	------------------

 警告	
 分解禁止	機器を分解したり、修理・改造はしない。 感電・故障の原因となります。
 必ず守る	電源(AC100V)を切り、予備電源用の鉛蓄電池を取りはずした状態で施工する。 活線工事は感電や発熱・故障の原因となります。
	施工説明書にしたがい、その質量に十分耐えるように強固に取り付ける。 安易な取り付けは脱落によるケガの原因となります。
	AC100V専用です。接続前に入力電圧の確認をする。 AC100V以外の電圧では発火・発熱の原因となります。
	AC100V用電源端子は確実に締め付ける。 締め付けが不十分な場合、発熱するおそれがあり、火災や焼損の原因となります。
	速結端子は確実に差し込む。 差し込みが不十分な場合、不動作の原因となります。
	ヒューズ交換は鉛蓄電池を取りはずし、電源(AC100V)を切った状態で行う。 電源を切らないと、感電の原因となります。
	鉛蓄電池は必ず接続する。 鉛蓄電池を接続していないと停電時に機能しません。
	AC100V端子の電源端子カバーは工事終了後、必ず取り付ける。 感電の原因となります。

 警告	
 禁止	水や雨のかかる場所(屋外など)および湿気の多い場所(給湯室など)には設置しない。 感電・故障の原因となります。
	小勢力端子にAC100V用電源線を接続しない。 発火・発煙の原因となります。
	鉛蓄電池は火に投入したり、ショートさせない。 爆発したり、やけど、火災になるおそれがあります。
	鉛蓄電池は絶対に分解しない。 鉛蓄電池は内部に劇物の希硫酸を保持しています。鉛蓄電池から漏液した場合は、皮膚や衣服に付着させないでください。万一付着した場合は、きれいな水で洗い流してください。とくに、液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗った後、医師の治療を受けてください。希硫酸が目に入ると失明、皮膚に付くとやけどの原因となるおそれがあります。
 ぬれ手禁止	ぬれた手で機器をさわったり、水をつけたり、水をかけたりしない。 感電・故障の原因となります。

 注意	
 アース線接続	アースの接続は確実に行う。 使用時や漏電のときに感電するおそれがあります。
 必ず守る	鉛蓄電池は定期的(3年)に交換する。 停電補償ができなくなり、事故の原因となります。

1. 付属品	5
2. 施工上のご注意	5
3. 機能設定	6
4. 取付方法	7～8
●火災通報装置の取付方法	7
●火災通報装置の音声ロムパック (BGF93) (別売) の取付方法	8
●火災通報専用電話機 (BGT1192) の取付方法	8
5. 全体の接続方法	9～12
●全体の接続方法	9～10
●配線図1 (F1ルート配線／F2ルート配線の断線監視を行うときの配線図)	11
①F1ルート配線 (F1＋、F1－) の断線監視を行うときの接続方法	
②F2ルート配線 (F2＋、F2－) の断線監視を行うときの接続方法	
●配線図2 (特定小規模施設用ワイヤレス感知器を接続するときの配線図)	12
①F2ルート配線 (F2＋、F2－) の断線監視を行わないときの接続方法	
②F2ルート配線 (F2＋、F2－) の断線監視を行うときの接続方法	
6. 配線可能距離 (片道)	13
7. 接続個数	13
8. 火災通報装置専用電話機増設装置 (BGT9318) を設置する場合	15
9. 火災通報装置専用電話機増設装置 (BGT9305H) を設置する場合	14
10. 電話機増設装置 (Uオーダー品) と増設電源装置 (Uオーダー品) を設置する場合	16
11. 確認ランプ・通報ベルの出力動作について	17
●119番へ通報した場合	17
●一般通報先へ通報した場合	17
12. 登録内容一覧表	18～19
13. 登録設定について	20～24
●登録方法について	20～21
●消去方法について	22
●登録した内容を確認するには	23
●全登録内容の初期化方法 (工場出荷時に戻す場合)	24
14. 通報内容の録音手続きの方法について	25
15. 施工後の確認方法	26
16. 故障時連絡先ラベルについて	26

●施工説明書 (本紙)	1冊
●取扱説明書	1冊
●通報内容登録用紙	1枚
●保守契約用書類など	1セット
●鉛蓄電池 (BGF9902)	1コ
●専用キー	2コ
●ヒューズ (0.5A)	1コ
●ヒューズ (1A)	2コ
●故障時連絡先ラベル	1枚
●モジュラコード (6極4芯・200mm)	1本
●露出タイプローゼット	1コ
●火災通報装置用火災通報ボタン保護カバー	2コ
●火災通報専用電話機用火災通報ボタン保護カバー	2コ
●ダイオード (600V・1A)	4コ
●終端用抵抗 (33kΩ・1/4W)	2コ
●火災通報装置設置届出書	1枚
●設置届出書の記入例・記入のしかた	1枚



音声ロムパック (BGF93) (別売) は、セットで購入していただき音声録音後、別途お届けします。
通報内容の録音手続きの方法について (25ページ) を参考にご依頼ください。

2. 施工上のご注意

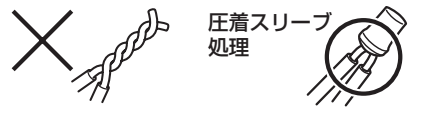
- この商品は **屋内専用** です。屋外・屋側には設置しないでください。
- 接続機器については、その商品に付属の説明書をよくお読みください。

■次のような場所には設置しないでください。(誤動作や故障の原因となります。)

- 直射日光の当たる場所
- 水滴、蒸気、ほこりなどがかかる場所
- 周囲に操作上支障となる障害物のある場所
- 衝撃、振動などの影響を受ける場所
- 常に人がいなくてようすを確かめられない場所
- 薬品などのガスが発生する場所
- 強電界やノイズの発生する場所

施工時のご注意

- 専用電源にできない場合は、事前に所轄の消防署にご確認ください。
- 構内交換機の内側には接続できません。
- 構内交換機、ファクシミリおよび留守番電話を接続する場合は、火災通報装置の機能に支障を生じるおそれがないように、施工説明書の機能設定 (6ページ) を参考に設定してください。この場合、火災通報専用電話機 (BGT1192) が必要となります。
- 現在、使用している一般電話機を専用電話機として使用する場合は、施工説明書の機能設定 (6ページ) を参考に設定してください。
- 消防機関 (119番) への発信、消防機関 (119番) からの逆信ができない回線には使用できません。(例：050・・・のIP電話など)
- 火災通報装置を接続する回線 (IP電話回線アダプタなどのアナログポートを含む) が通報先応答にて極性反転 (リバース) しない場合は、一般通報機能を使用できません。(例：公衆電話回線など)
- 火災通報装置を接続する回線が、通報先応答にて極性反転 (リバース) しない通報先は、一般通報機能の通報先に登録できません。(例：フリーダイヤル®などの着信課金サービスへの通報)
※フリーダイヤル®は、NTTコミュニケーションズの登録商標です。
- ISDN回線に接続する場合は、必ずターミナルアダプタTA／T (サクサ(株) 製) をご使用ください。
- ADSL回線に接続する場合、スプリッタ分離タイプ (NTTフレッツADSLなど) に接続してください。スプリッター一体タイプには接続できません。
- IP電話回線をご使用になる場合は、関係する省令、告示に従い、設置・運用してください。(取扱説明書の「IP電話回線のご利用にあたっての注意事項」 (25ページ) を参照してください。)
- 自動火災報知設備の受信機と連動させる場合は、必ず連動停止スイッチ箱 (BGT9010KH) と接続してください。
- 特定小規模施設用** 光電式スポット型感知器2種 (試験機能付) (無線式・連動型警報機能付・電池式・移報接点付) (子器) (BGW22428K) と連動させる場合は、必ず連動停止スイッチ箱 (DC12V) (BGT9011H) と接続してください。
- 特定小規模施設用** 光電式スポット型感知器2種 (試験機能付) (無線式・連動型機能付・電池式) (親機) (BGW22717K) と接続する場合はワイヤレス連動停止スイッチ (BGW9200) (別売) に付属の施工説明書を参照してください。
- 工事・施工時のゴミなどは機器の中には残さないでください。ショートや故障の原因となります。
- 電線接続部は圧着スリーブなどで行い、絶縁処理をしてください。
電線をよじっただけでは、長期使用中に電線表面が酸化接触不良をおこし誤報の原因となります。
- 接続方法に示す機器以外の機器を接続する場合には、当社へご相談ください。不適切な接続は誤作動・故障の原因となります。
- アースは必ず接続してください。(D種 (第3種) 接地相当以上 (100Ω以下) としてください。)
- 露出タイプローゼットに接続する配線 (モジュラコードの配線は除く。) と火災通報装置の配線は別ケーブルにしてください。



3. 機能設定

音声ロムパック (BGF93) (別売)

不定フレーズ音量調整ボリューム

●右にまわすと音量が大きくなります。

RV3
(不定)

このスイッチは押さないでください。

●押すと通報動作を中断します。

固定フレーズ音量調整ボリューム

●右にまわすと音量が大きくなります。

RV4
(固定)

専用電話機モニター音量調整ボリューム

●右にまわすと音量が大きくなります。

RV2
(外部)

一般電話機を専用電話機と「する／しない」切替ジャンパー

●現在、使用中の一般電話機を火災通報専用電話機のかわりに使用するかしないかの設定をします。
(出荷時は「専用電話機としない」側に設定)
●「専用電話機とする」側の場合、一般電話機＋本体の構成でも本体の通話割込ボタン操作で通話割込機能が使用できるようになります。

●専用電話機とする場合



●専用電話機としない場合



逆信時の一般電話機ベル鳴動用ジャンパー

●119番からの逆信時に、回線用電話機のベル鳴動を設定します。(出荷時は「鳴動させない」側に設定)

●鳴動させる場合



●鳴動させない場合



本体モニター音量調整ボリューム

●右にまわすと音量が大きくなります。

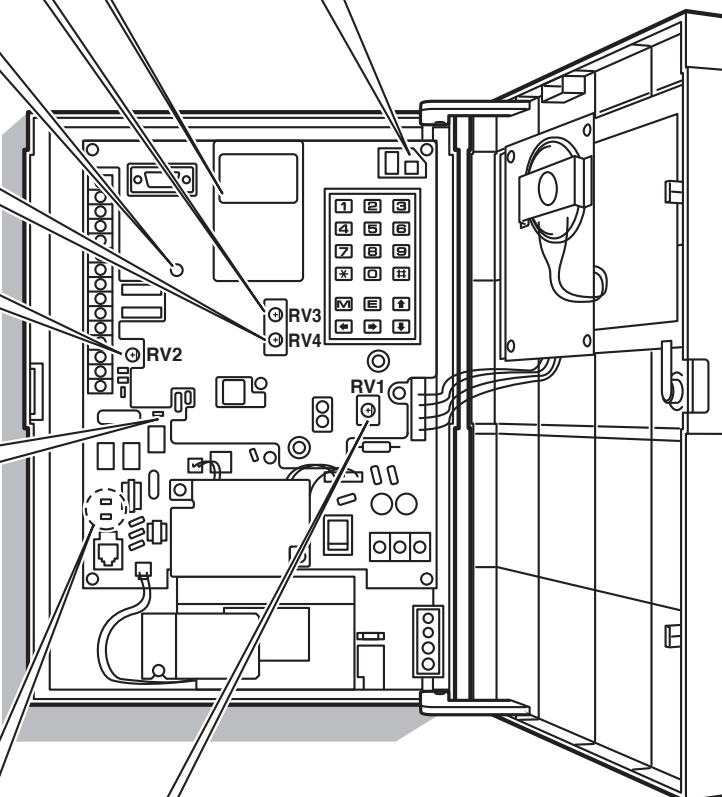
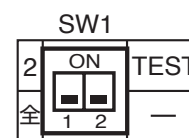
RV1
(内部)

設定スイッチ

●動作確認時、119番通報をさせない場合は、設定スイッチの1を2側 (ON) にしてください。
(出荷時は設定スイッチの1は全側 (OFF) で119番通報をします。)

設定スイッチの2はさわらないでください。

●動作確認後は、必ず設定スイッチの1を全側 (OFF) に戻してください。



設定内容	逆信時の一般電話機ベル鳴動用ジャンパー	一般電話機を専用電話機と「する／しない」切替ジャンパー
一般電話機を専用電話機として使用する場合	JP2 JP3	JP5
構内交換機・ファクシミリおよび留守番電話機を接続する場合	JP2 JP3	JP5

4. 取付方法

火災通報装置の取付方法

蓄電池交換ラベル

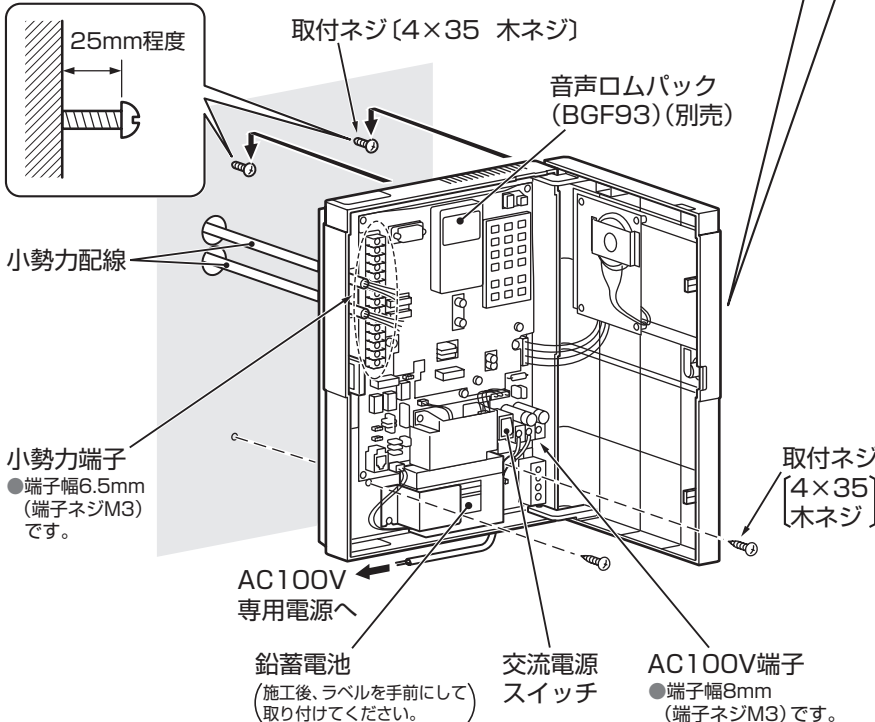
蓄電池は3年を目処に必ず交換してください。漏液による性能劣化で機器損傷などの恐れがあります。
次回蓄電池交換期限 年 月

差し込み右へまわす。

専用キー (付属)

専用キー (付属)

左へまわし、抜く。



1 付属の専用キーで本体の扉を開ける。

2 本体を取り付ける。

※使用できるネジ…4×35木ネジ
●上部の取付ネジを25mm程度残して、本体を引っ掛けた後、取付ネジを締め付ける。

●落下しないように補強板などを取り付けてください。

3 配線をする。

※「接続方法」参照 (9～16ページ)

●AC100V配線を接続する場合、保護カバーをはずして接続してください。

●結線後、保護カバーを必ず元に戻してください。

4 交流電源スイッチを「ON」側にする。

5 鉛蓄電池を取り付ける。

(取扱説明書22ページ参照)

6 扉を閉め、付属の専用キーで閉める。

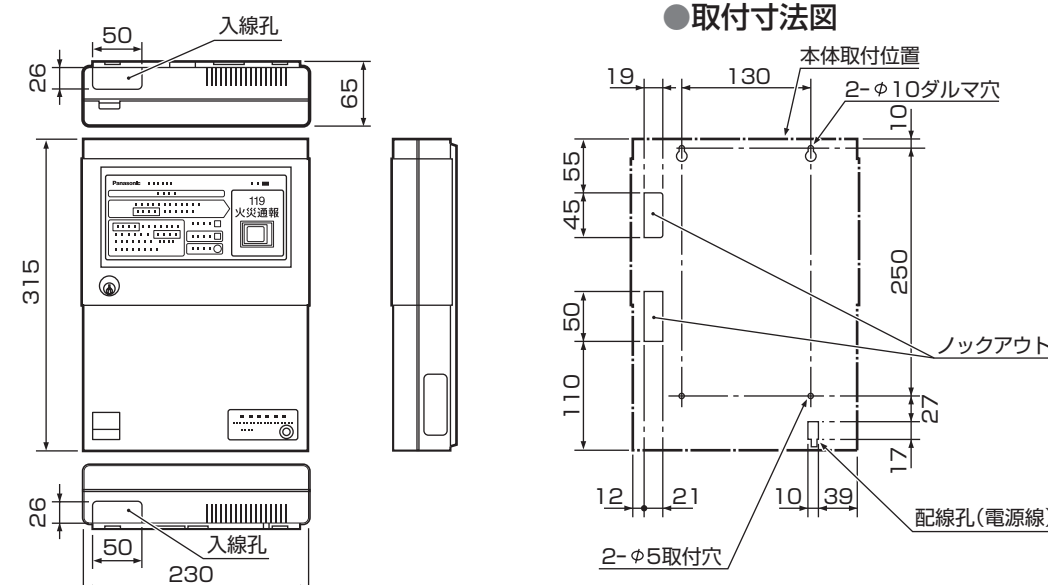
7 蓄電池交換ラベルに鉛蓄電池を交換する期限を記入してください。

●鉛蓄電池を取り付けた日から起算して3年後の日を記入してください。

取付寸法図

●取付寸法図

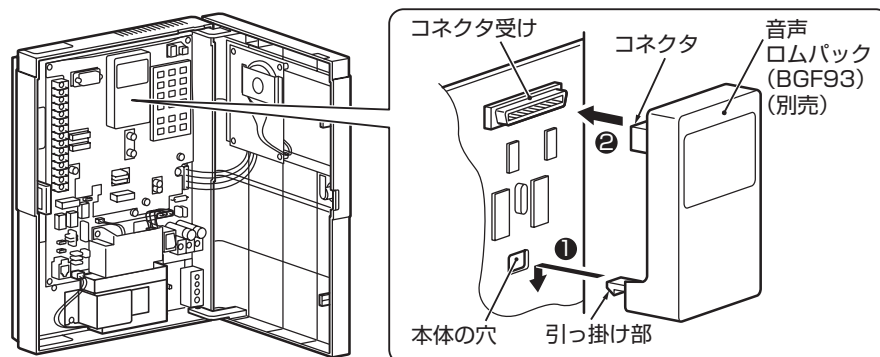
●ダルマ穴寸法



(単位: mm)

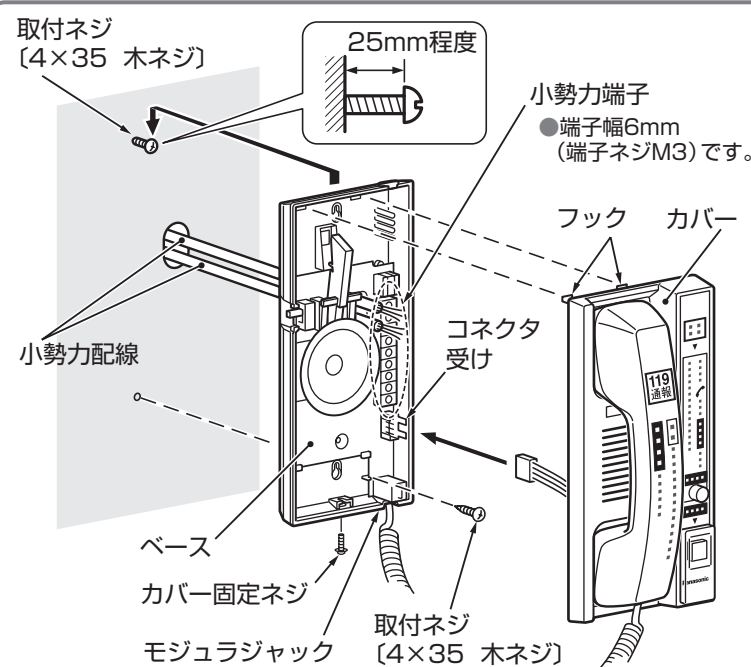
4. 取付方法

火災通報装置の音声ロムパック (BGF93) (別売) の取付方法



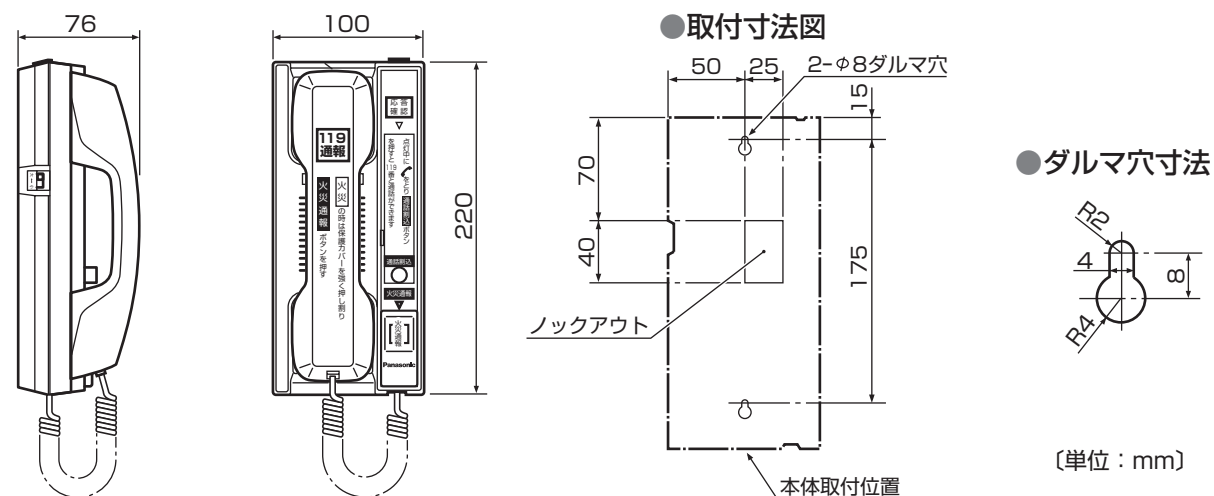
- 1 音声ロムパック (BGF93) (別売) の引っ掛け部を本体の穴に入れ、下にさげる。
- 2 音声ロムパック (BGF93) (別売) のコネクタを本体のコネクタ受けに差し込む。

火災通報専用電話機 (BGT1192) の取付方法



- 1 カバー固定ネジをはずし、カバーを開ける。
- 2 コネクタリード線をはずし、カバーとベースを分離する。
- 3 ベースを取り付ける。
※使用できるネジ…4×35木ネジ
●上部の取付ネジを25mm程度残して、ベースを引っ掛けた後、取付ネジを締め付ける。
- 4 配線をする。
※「接続方法」参照(9～16ページ)
- 5 カバーのコネクタリード線をベースのコネクタ受けに差し込む。
- 6 カバー上部のフックをベースに引っ掛け、カバーをカバー固定ネジで固定する。

取付寸法図



5. 全体の接続方法

注 ●ISDN回線と接続する場合は、必ずターミナルアダプタTA/T (サクサ(株)製) をご使用ください。
(詳細については、ターミナルアダプタTA/Tに付属の取扱説明書を参照してください。)

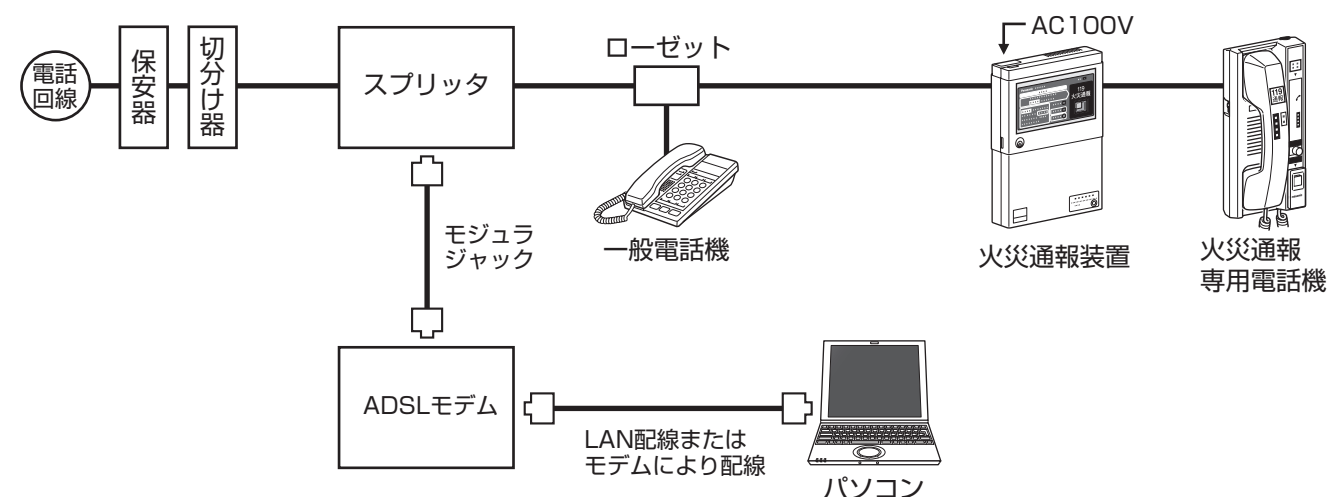
ターミナルアダプタTA/Tの電源ユニットを使用しない場合	●火災通報装置のモジュラコードをターミナルアダプタTA/Tの通報装置(電話1)コネクタに接続する。 ●火災通報装置のBELL端子、LAMP端子、GND端子、+12V端子をターミナルアダプタTA/Tの電源/制御コネクタに接続する。
ターミナルアダプタTA/Tの電源ユニットを使用する場合	●火災通報装置のモジュラコードをターミナルアダプタTA/Tの通報装置(電話1)コネクタに接続する。 ●火災通報装置のBELL端子、LAMP端子、GND端子をターミナルアダプタTA/Tの電源/制御コネクタに接続する。

●ISDN回線への接続後の試験は、iANTS-102試験装置 (安全センター認定：通試-06号 (サクサ(株)製) を使用ください。(詳細については、iANTS-102試験装置に付属の取扱説明書を参照してください。)
(iANTS-102試験装置は生産終了しているため、新規購入はできません。)

※ターミナルアダプタTA/T、iANTS-102試験装置の詳細については、下記にお問い合わせください。
サクサ(株) お客様相談室 ナビダイヤル (全国共通番号) 0570-001-393

警告	必ず守る	AC100V用電源端子は確実に締め付ける。 締め付けが不十分な場合、発熱するおそれがあり、火災や焼損の原因となります。
	必ず守る	速結端子は確実に差し込む。 差し込みが不十分な場合、不動作の原因となります。
	禁止	電源 (AC100V) を切り、予備電源用の電池を取りはずした状態で施工する。 活線工事は感電や発熱・故障の原因となります。
	禁止	小勢力端子にAC100V用電源線を接続しない。 発火・発煙の原因となります。

- 火災通報装置には、F1ルート配線 (F1+、F1-) およびF2ルート配線 (F2+、F2-) の「短絡監視機能」、「断線監視機能」があります。「短絡監視機能」、「断線監視機能」は、「12登録内容一覧表」の以下項目にて設定変更できます。
 - ・「F1ルート短絡監視機能」「F2ルート短絡監視機能」(初期設定：あり (短絡監視を行う))
 - ・「F1ルート断線監視機能」「F2ルート断線監視機能」(初期設定：なし (断線監視を行わない))
- 10ページの接続図は、火災通報装置が初期設定時 (短絡監視を行う、断線監視を行わない) の接続例です。図 (10ページ) のように正しく配線してください。動作しない場合は、電源を切って再度配線をご確認ください。
- 接続する商品は別途お買い求めください。
- ADSL回線と接続する場合は、スプリッタ分離タイプ (NTTフレッツADSLなど) に接続してください。スプリッター一体タイプには接続できません。

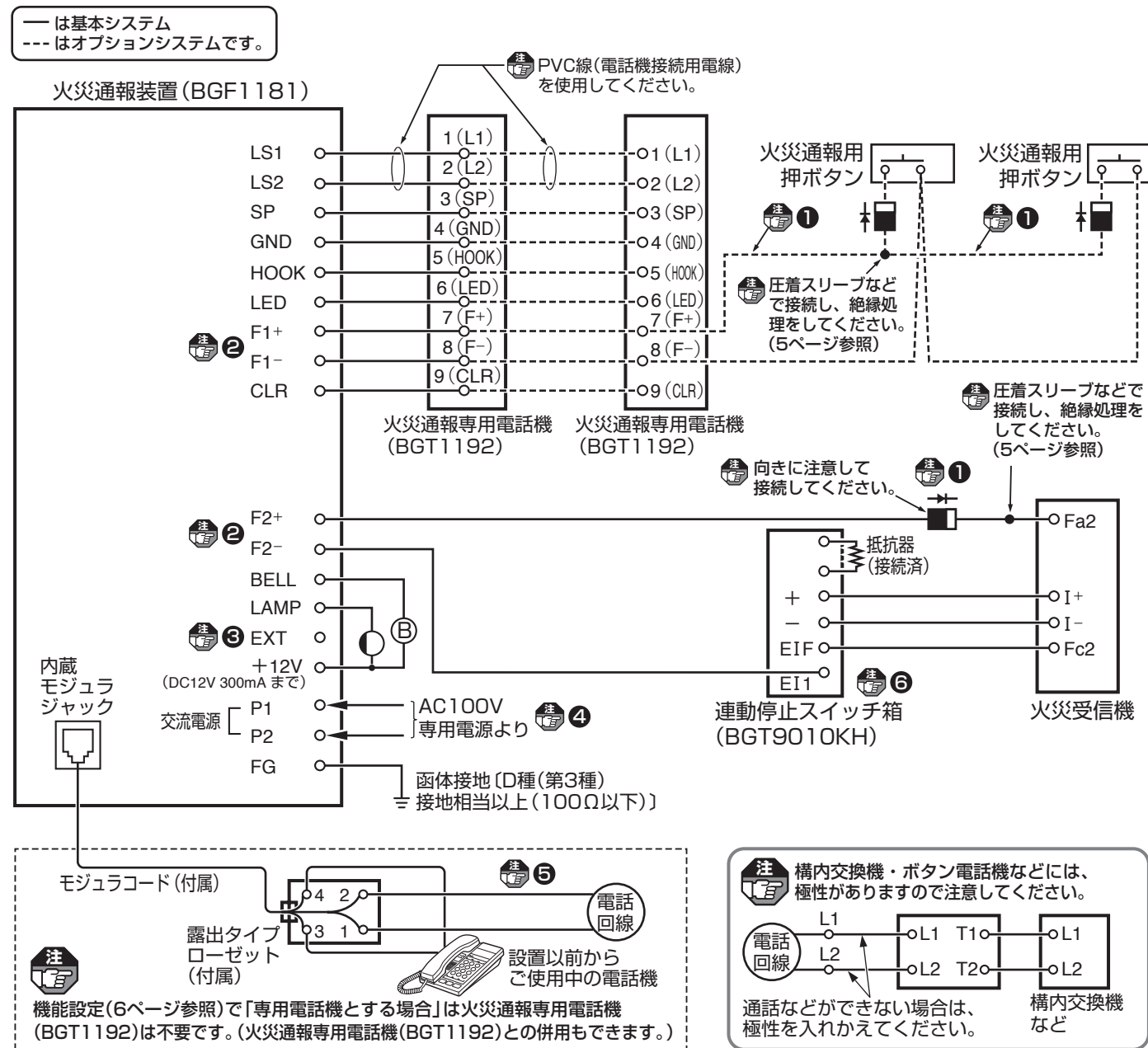


5. 全体の接続方法

-  **注** 短絡監視を行うため、火災通報ボタンを増設する場合や自火報(火災受信機など)と接続する場合は、付属のダイオード(600V・1A)の極性に注意して接続してください。ダイオードは圧着スリーブなどで接続し、絶縁処理をしてください。(ダイオードが接続されていない場合、消防機関(119番)への通報が行えません。)

※短絡監視を行わない場合(「F1ルート短絡監視機能」「F2ルート短絡監視機能」の設定を「なし(短絡監視を行わない)」に変更する場合)は、ダイオードの接続は不要です。

 - 断線監視を行う場合、11ページの配線図1(F1ルート配線/F2ルート配線の断線監視を行うときの配線図)にしたがって接続してください。
 - F1ルート配線(F1+、F1-)やF2ルート配線(F2+、F2-)が短絡した場合、電子ブザーなどを+12V端子(+側)、EXT端子(オープンコレクタ:DC12V・0.5A)(-側)に取り付けると事故の事前チェックが可能です。(0.5秒周期で断続出力します。)(「F1ルート断線監視機能」「F2ルート断線監視機能」の設定を「あり(断線監視を行う)」に変更した場合は、F1ルート配線、F2ルート配線が断線したときにも出力します。)
 - 専用電源にできない場合は、事前に所轄の消防署にご確認ください。
 - 露出タイプローゼットに接続する配線(モジュラコードの配線は除く。)と火災通報装置の配線は別ケーブルにしてください。
 - 特定小規模施設用光電式スポット型感知器と接続する場合は、12ページの配線図2(特定小規模施設用ワイヤレス感知器を接続するときの配線図)にしたがって接続してください。



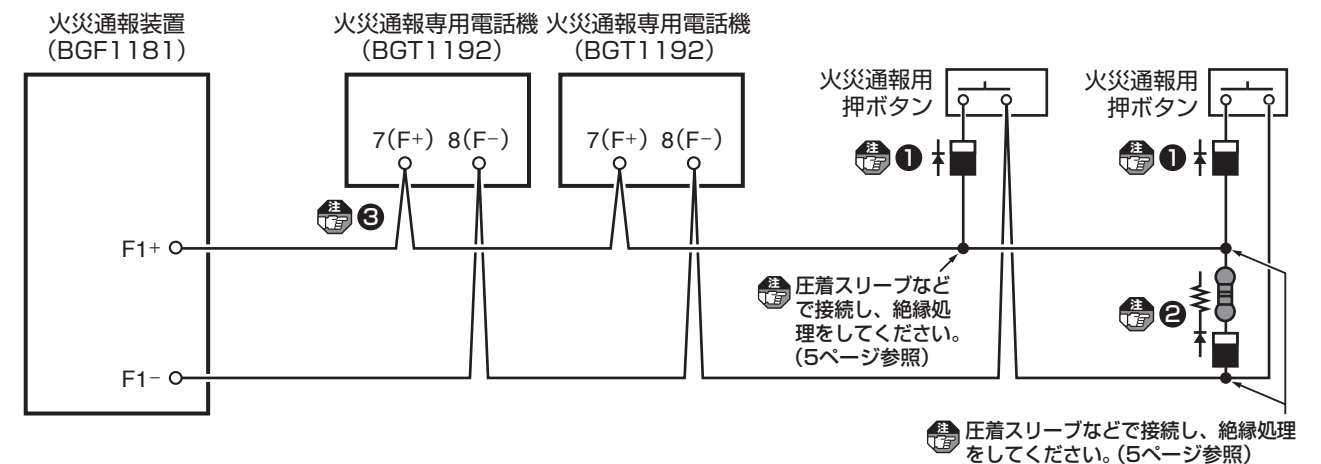
■配線図1 (F1ルート配線/F2ルート配線の断線監視を行うときの配線図)

断線監視を行う場合は、「F1ルート断線監視機能」「F2ルート断線監視機能」の設定を「あり(断線監視を行う)」に変更してください。

① F1ルート配線(F1+、F1-)の断線監視を行うときの接続方法

- 注**

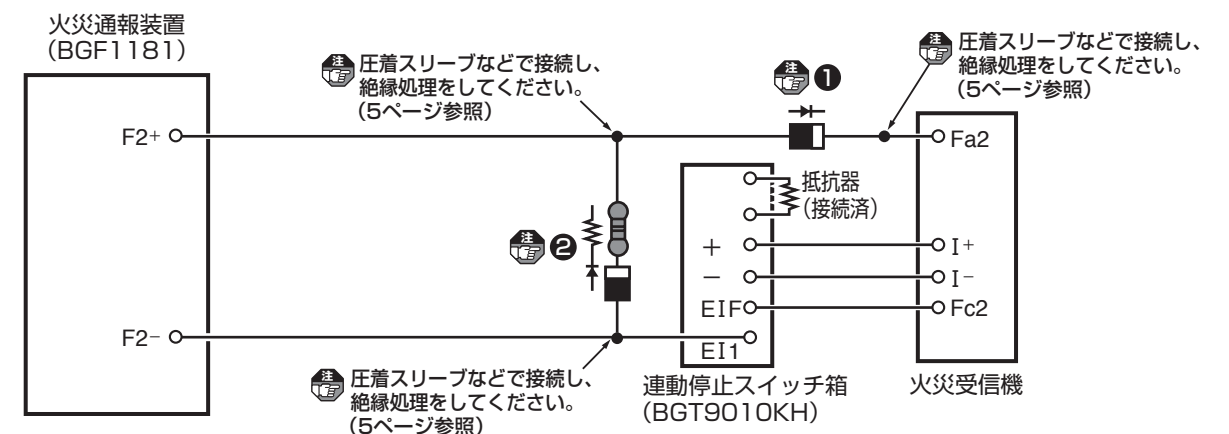
 - ① 短絡監視を行うため、火災通報用押ボタンを増設する場合は、付属のダイオード(600V・1A)の極性に注意して接続してください。ダイオードは圧着スリーブなどで接続し、絶縁処理をしてください。
(ダイオードが接続されていない場合、消防機関(119番)への通報が行えません。)
※短絡監視を行わない場合(「F1ルート短絡監視機能」の設定を「なし(短絡監視を行わない)」に変更する場合)は、ダイオードの接続は不要です。
 - ② 断線監視を行うため、付属の終端抵抗(33kΩ・1/4W)、ダイオード(600V・1A)を直列につないで、火災通報装置から最も遠い個所に接続してください。ダイオードは極性に注意して接続してください。また、圧着スリーブなどで接続し、絶縁処理をしてください。
 - ③ 断線監視を行うため、火災通報装置と火災通報専用電話機、火災通報用押ボタンと接続するF1ルート配線(F1+、F1-)は以下のように送り配線にしてください。(火災通報装置専用電話機増設装置を使用する場合、火災通報装置専用電話機増設装置と火災通報専用電話機、火災通報用押ボタンを接続するF1ルート配線(F1+、F1-)も分岐端子台で分岐せずに、送り配線にして接続してください。)



② F2ルート配線(F2+、F2-)の断線監視を行うときの接続方法

-  ① 短絡監視を行うため、自火報(火災受信機など)と接続する場合、付属のダイオード(600V・1A)の極性に注意して接続してください。ダイオードは圧着スリーブなどで接続し、絶縁処理をしてください。
(ダイオードが接続されていない場合、消防機関(119番)への通報が行えません。)
※短絡監視を行わない場合(「F2ルート短絡監視機能」の設定を「なし(短絡監視を行わない)」に変更する場合)は、ダイオードの接続は不要です。

② 断線監視を行うため、付属の終端抵抗($33k\Omega \cdot 1/4W$)、ダイオード(600V・1A)を直列につないで、火災通報装置から最も遠い個所に接続してください。ダイオードは極性に注意して接続してください。また、圧着スリーブなどで接続し、絶縁処理をしてください。
なお、連動停止スイッチ箱(BGT9010KH)と火災受信機間の配線(EIF-Fc2)の断線監視はできません。

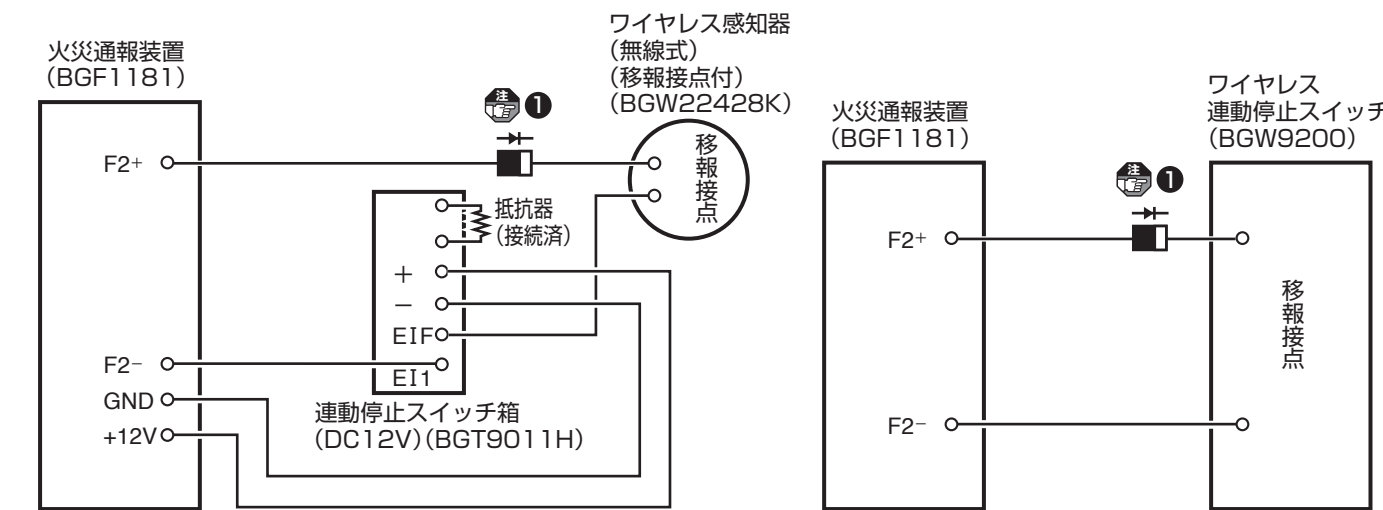


5. 全体の接続方法

■配線図2 (特定小規模施設用ワイヤレス感知器を接続するときの配線図)

① F2ルート配線(F2+、F2-)の断線監視を行わないときの接続方法

注 ① 短絡監視を行うため、自火報設備(特定小規模施設用ワイヤレス感知器)と接続する場合、付属のダイオード(600V・1A)の極性に注意して接続してください。ダイオードは圧着スリーブなどで接続し、絶縁処理をしてください。(ダイオードが接続されていない場合、消防機関(119番)への通報が行えません。)
※短絡監視を行わない場合(「F2ルート短絡監視機能」の設定を「なし(短絡監視を行わない)」に変更する場合)は、ダイオードの接続は不要です。



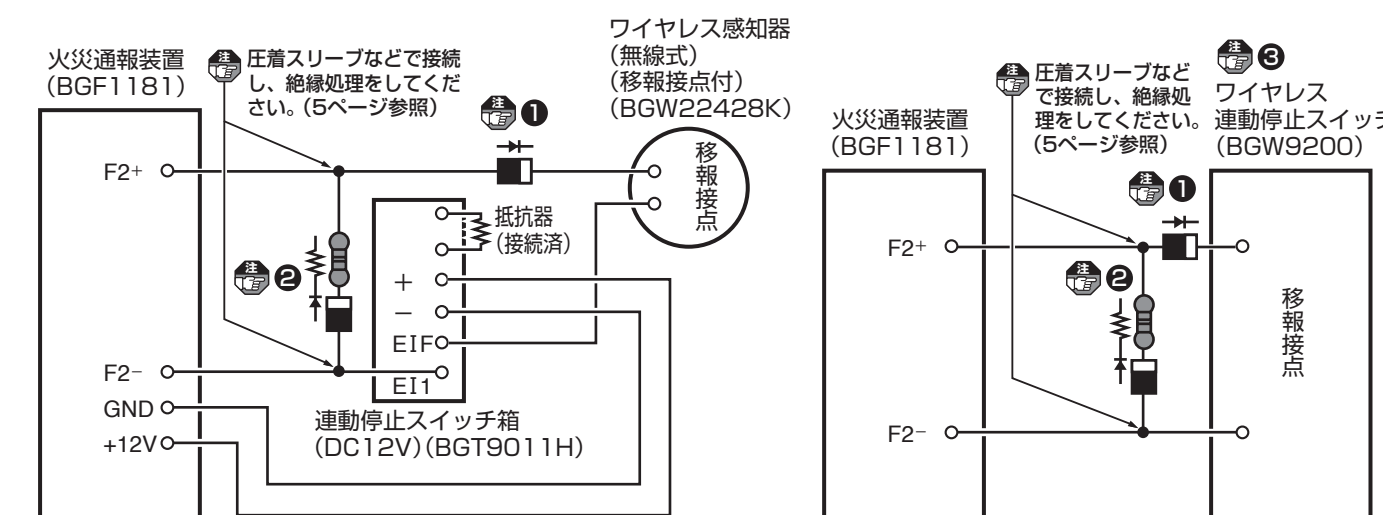
② F2ルート配線(F2+、F2-)の断線監視を行うときの接続方法

●断線監視を行う場合は、「F2ルート断線監視機能」の設定を「あり(断線監視を行う)」に変更してください。

注 ① 短絡監視を行うため、自火報設備(特定小規模施設用ワイヤレス感知器)と接続する場合、付属のダイオード(600V・1A)の極性に注意して接続してください。ダイオードは圧着スリーブなどで接続し、絶縁処理をしてください。(ダイオードが接続されていない場合、消防機関(119番)への通報が行えません。)
※短絡監視を行わない場合(「F2ルート短絡監視機能」の設定を「なし(短絡監視を行わない)」に変更する場合)は、ダイオードの接続は不要です。

② 断線監視を行うため、付属の終端抵抗(33kΩ・1/4W)、ダイオード(600V・1A)を直列につないで、火災通報装置から最も遠い個所に接続してください。ダイオードは極性に注意して接続してください。また、圧着スリーブなどで接続し、絶縁処理をしてください。なお、運動停止スイッチ箱(BGT9011H)とワイヤレス感知器(無線式)(移報接点付)間の配線(EIF-移報接点)の断線監視はできません。

③ ワイヤレス運動停止スイッチ(BGW9200)を接続し、火災通報装置の断線監視機能を「あり(断線監視を行う)」に設定するときは、ワイヤレス運動停止スイッチの取扱説明書を参照して、ワイヤレス運動停止スイッチの断線検知設定スイッチを「断線検知なし」に設定してください。(設定しないとワイヤレス運動停止スイッチが断線を誤検出する場合があります。)



6. 配線可能距離(片道)

■火災通報専用電話機 (BGT1192) 1台の場合

項 目	使用電線	
	0.5mm ² または φ0.65	0.75mm ² または φ0.9
火災通報装置 ～火災通報専用電話機	最遠長 150m	最遠長 200m

■火災通報専用電話機 (BGT1192) 2台の場合

項 目	使用電線	
	0.5mm ² または φ0.65	0.75mm ² または φ0.9
火災通報装置 ～火災通報専用電話機	最遠長 100m	最遠長 150m

※火災通報専用電話機との接続はPVC線(電話機接続用電線)を使用してください。
なお、所轄の消防署から電線の指定がある場合、指定電線を使用してください。

■確認ランプ・通報ベルの場合

項 目	使用電線	
	0.5mm ² または φ0.65	0.75mm ² または φ0.9
火災通報装置 ～確認ランプまたは通報ベル	最遠長 40m	最遠長 80m

7. 接続个数

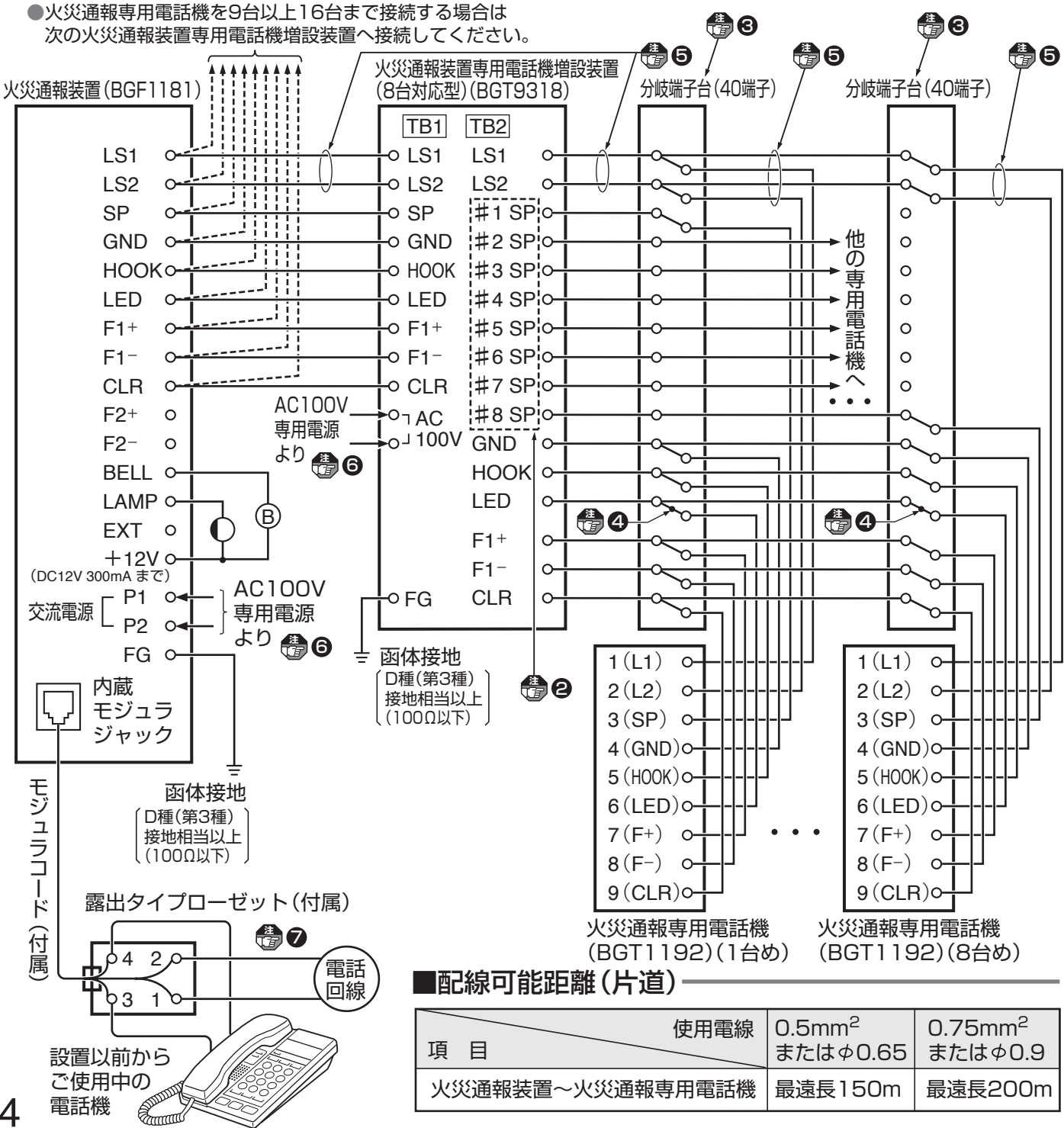
●配線方法は10・11・12・14・15・16ページを参照ください。

接続機器	品 番	接 続 個 数
火災通報専用 電話機	BGT1192	2台まで 注 火災通報装置には火災通報専用電話機または以下の電話機増設装置を2台まで、自由に組み合わせて接続することが可能です。 1. 火災通報装置専用電話機増設装置(BGT9318) 火災通報専用電話機：8台まで 2. 火災通報装置専用電話機増設装置(BGT9305H) 火災通報装置専用電話機：5台まで 3. 電話機増設装置、増設電源装置(Uオーダー品) 火災通報装置専用電話機：8台まで 例：BGT9318を使用する場合： ●BGT9318を1台接続すると、火災通報専用電話機が3台以上8台まで接続可能です。 ●BGT9318を2台接続すると、火災通報専用電話機が9台以上16台まで接続可能です。
		合計300mA以下になるように接続してください。
確認ランプ	BGT9001K	合計300mA以下になるように接続してください。
通報ベル	EA4643K (DC12V 40mA)	

8. 火災通報装置専用電話機増設装置 (BGT9318)を設置する場合

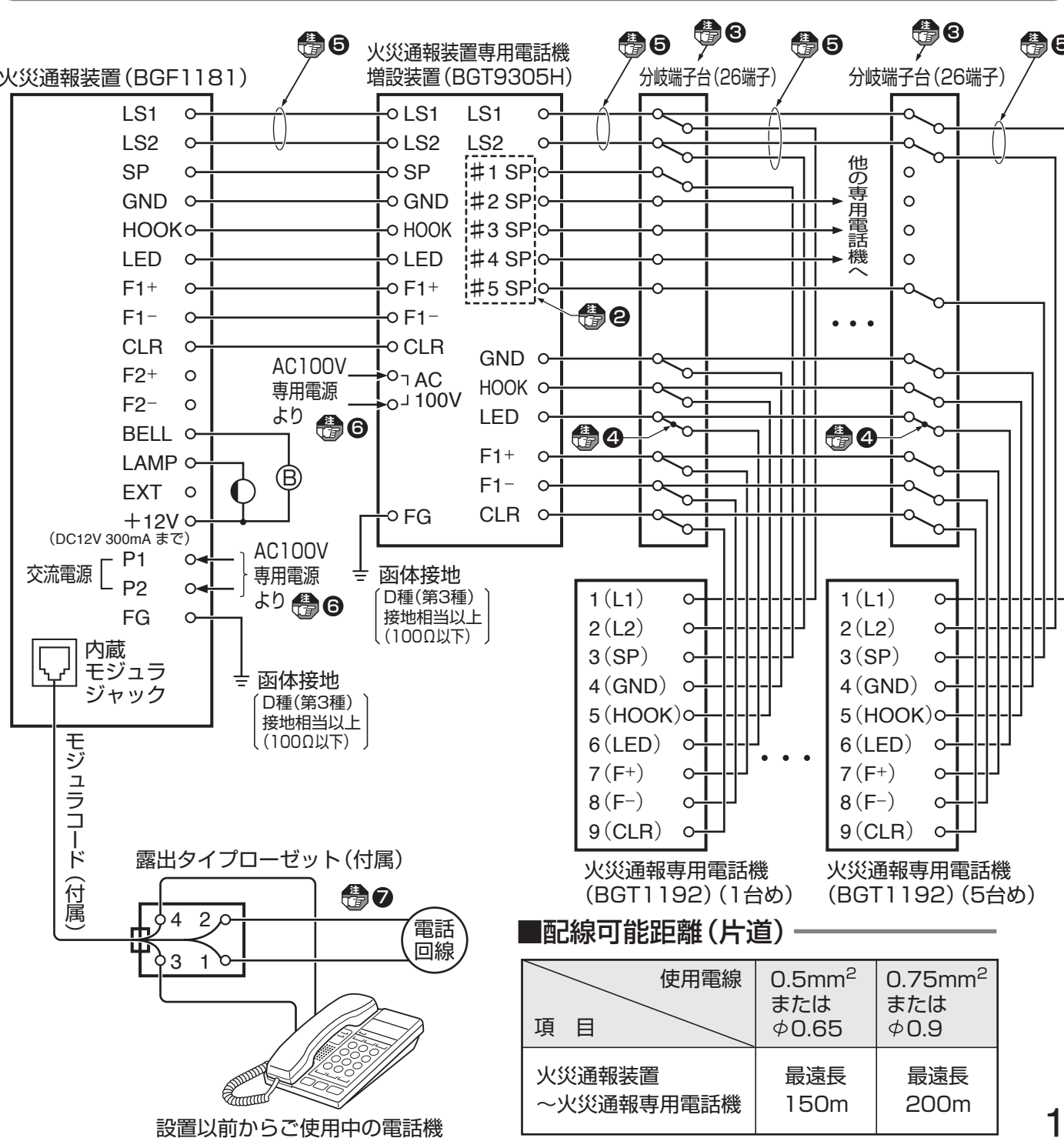
- 注**
- ① 火災通報装置専用電話機増設装置 (BGT9318) 1台に火災通報専用電話機を最大8台まで接続できます。
 - ② 接続する火災通報専用電話機の数が8台未満のときは、必ず小さい番号から順に使用してください。
 - ③ 分岐端子台は40Pをご使用ください。なお、F1ルート配線 (F1+、F1-) の断線監視を行う場合、11ページの配線図1 (F1ルート配線/F2ルート配線の断線監視を行うときの配線図) を参照し、F1ルート配線 (F1+、F1-) は、分岐端子台で分岐せず、送り配線にしてください。また、付属の終端抵抗 (33kΩ・1/4W) とダイオード (600V・1A) を火災通報装置から最も遠い個所に接続してください。
 - ④ 分岐端子台のLED端子には、火災通報装置専用電話機増設装置 (BGT9318) に付属の抵抗 (560Ω・1/2W) を接続してください。接続しないと火災通報専用電話機が破損します。
 - ⑤ PVC線 (電話機接続用電線) を使用してください。
 - ⑥ 専用電源にできない場合は、事前に所轄の消防署にご確認ください。
 - ⑦ 露出タイプローゼットに接続する配線 (モジュラコードの配線は除く。) と火災通報装置の配線は別ケーブルにしてください。

●火災通報専用電話機を9台以上16台まで接続する場合は、次の火災通報装置専用電話機増設装置へ接続してください。



9. 火災通報装置専用電話機増設装置 (BGT9305H)を設置する場合

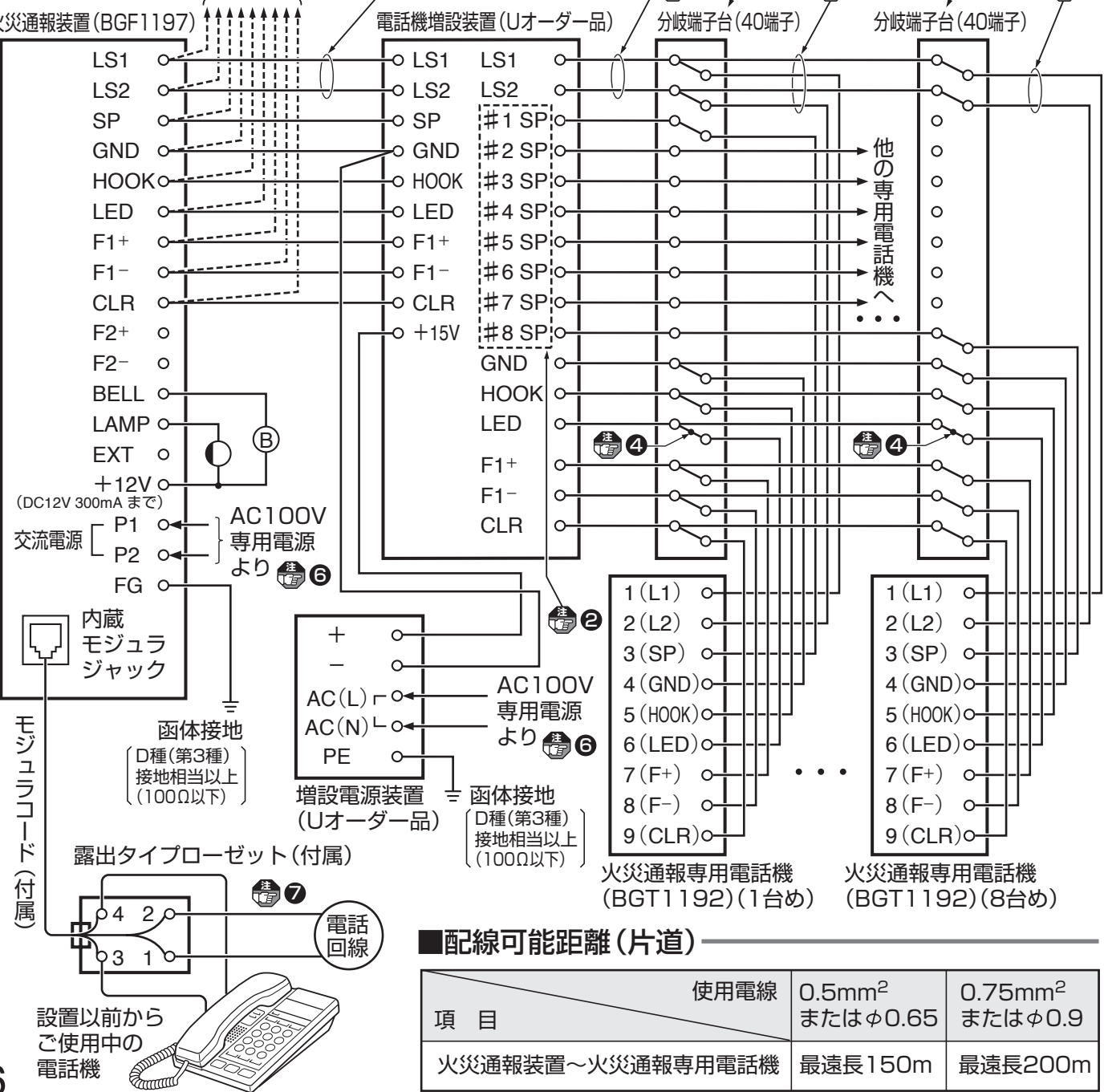
- 注**
- ① 火災通報装置専用電話機増設装置 (BGT9305H) 1台に火災通報専用電話機を最大5台まで接続できます。 (2017年1月生産終了予定品です。)
 - ② 接続する火災通報専用電話機の数5台未満のときは、必ず小さい番号から順に使用してください。
 - ③ 分岐端子台は26P以上をご使用ください。なお、F1ルート配線 (F1+、F1-) の断線監視を行う場合、11ページの配線図1 (F1ルート配線/F2ルート配線の断線監視を行うときの配線図) を参照し、F1ルート配線 (F1+、F1-) は、分岐端子台で分岐せず、送り配線にしてください。また、付属の終端抵抗 (33kΩ・1/4W) とダイオード (600V・1A) を火災通報装置から最も遠い個所に接続してください。
 - ④ 分岐端子台のLED端子には、火災通報装置専用電話機増設装置 (BGT9305H) に付属の抵抗 (560Ω・1/2W) を接続してください。接続しないと火災通報専用電話機が破損します。
 - ⑤ PVC線 (電話機接続用電線) を使用してください。
 - ⑥ 専用電源にできない場合は、事前に所轄の消防署にご確認ください。
 - ⑦ 露出タイプローゼットに接続する配線 (モジュラコードの配線は除く。) と火災通報装置の配線は別ケーブルにしてください。



10. 電話機増設装置(Uオーダー品)と増設電源装置(Uオーダー品)を設置する場合

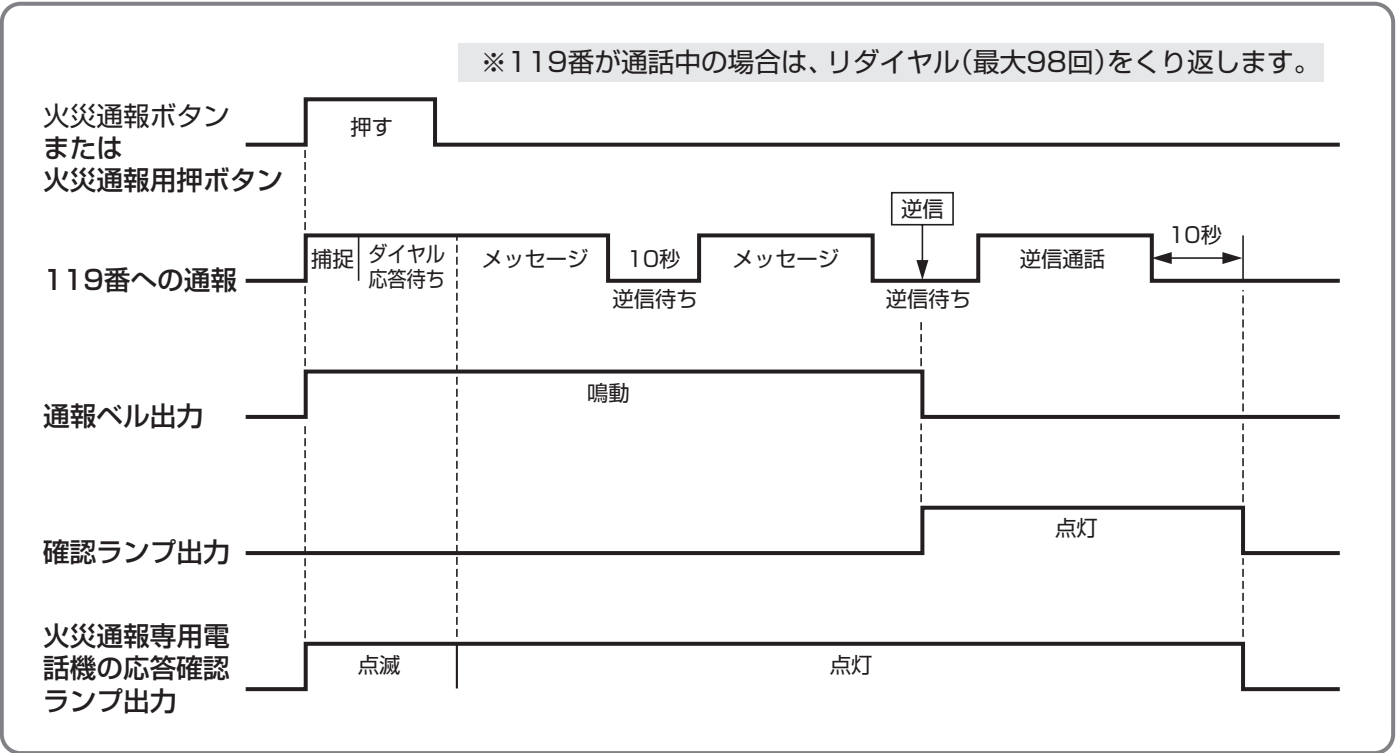
- 注
- ① 電話機増設装置(Uオーダー品)1台に火災通報専用電話機を最大8台まで接続できます。
(電話機増設装置(Uオーダー品)と増設電源装置(Uオーダー品)は2017年1月生産終了予定品です。)
 - ② 接続する火災通報専用電話機の数が8台未満のときは、必ず小さい番号から順に使用してください。
 - ③ 分岐端子台は40Pをご使用ください。なお、F1ルート配線(F1+、F1-)の断線監視を行う場合、11ページの配線図1(F1ルート配線/F2ルート配線の断線監視を行うときの配線図)を参照し、F1ルート配線(F1+、F1-)は、分岐端子台で分岐せず、送り配線にしてください。また、付属の終端抵抗(33kΩ・1/4W)とダイオード(600V・1A)を火災通報装置から最も遠い個所に接続してください。
 - ④ 分岐端子台のLED端子には、電話機増設装置(Uオーダー品)に付属の抵抗(560Ω・1/2W)を接続してください。接続しないと火災通報専用電話機が破損します。
 - ⑤ PVC線(電話機接続用電線)を使用してください。
 - ⑥ 専用電源にできない場合は、事前に所轄の消防署にご確認ください。
 - ⑦ 露出タイプローゼットに接続する配線(モジュラコードの配線は除く。)と火災通報装置の配線は別ケーブルにしてください。

●火災通報専用電話機を9台以上16台まで接続する場合は次の電話機増設装置へ接続してください。

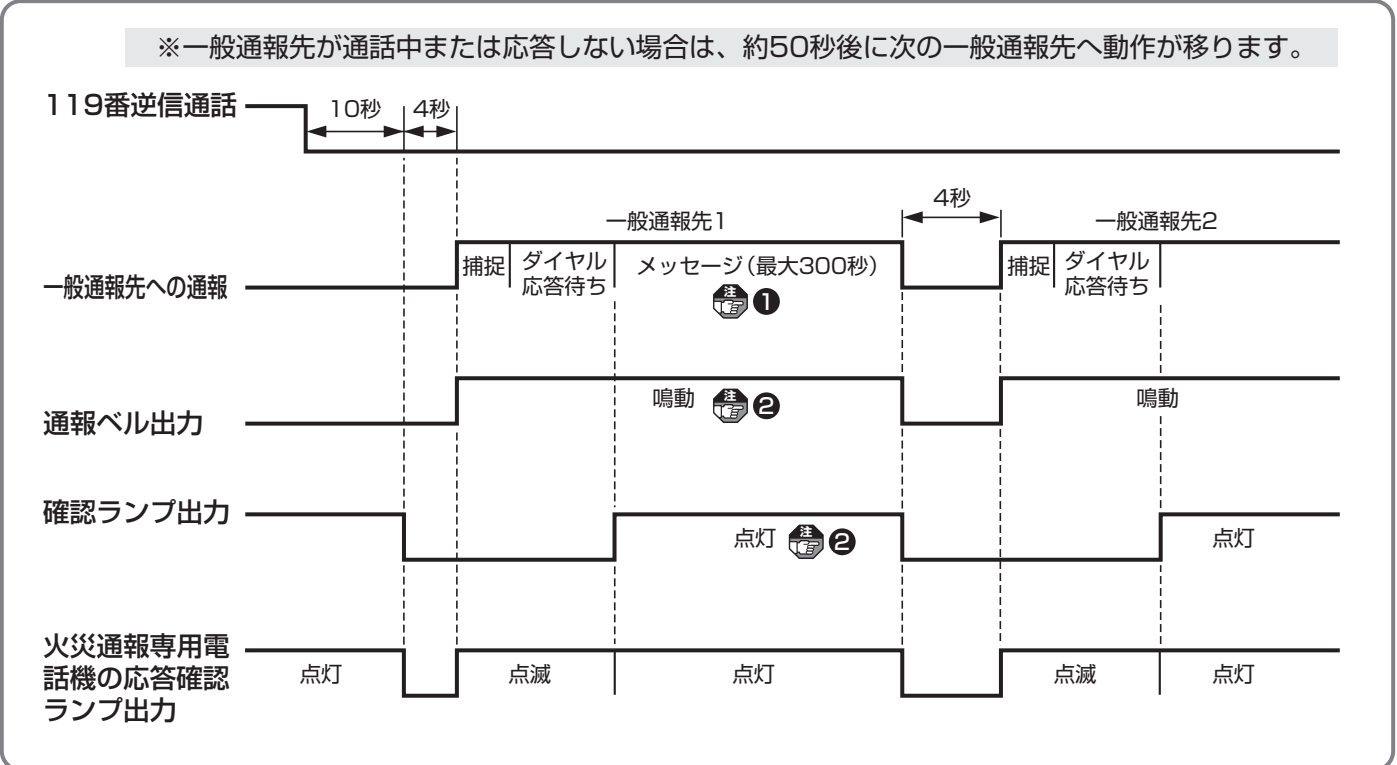


11. 確認ランプ・通報ベルの出力動作について

119番へ通報した場合



一般通報先へ通報した場合



- 注
- ① 登録設定(18ページ)により一般通報メッセージの送出時間を300秒から60秒に変更することができます。
 - ② 登録設定(18ページ)により通報ベル・確認ランプの出力をなくすことができます。

12.登録内容一覧表

項目		設定内容	初期設定	テンキー操作			設定値記入欄
共通設定項目	使用電話回線の種別 (DP/PB)	DP/10pps	●				
		DP/20pps					3 1
		PB					3
	0発信回線 (セントレクス) の設定	0 発信なし	●				3 3
		0 発信あり					1
一般通報先に関わる設定項目	一般通報先の電話番号の設定	一般通報先の電話番号 (最大16カ所)	—	登録時 #	☐ … ☐ 電話番号 3桁〜24桁	取扱説明書の裏表紙に記入してください。	0 1 : 1 6
	一般通報の打ち切り方法	一カ所応答時点で終了 (応答エンド)					1
		すべて応答するまで呼び出す (オールコール)	●				1 7
	一般通報時の通報ベル、確認ランプ出力のありなし	あり	●				1 8
		なし					0
	一般通報時の応答判定	通報先が受話器を上げた時点	●				1
		通報先が1メッセージ聞き終えた時点					0
	一般通報メッセージの送出時間	300秒	●				0
		60秒					1
	一般通報時のモニター	モニターあり					1
		モニターなし	●				0
自動火災報知設備と連動する場合の設定項目	自火報メッセージ中に火災通報ボタン入力が入った場合のメッセージ切り替えタイミング	自火報メッセージ1回送出後切り替え	●	消去時 # #			1 9
		即時切り替え					1
	F2端子の設定	自火報入力	●				0
		火災通報ボタン入力					1
	F2ルート (自火報) 通報停止機能	なし (通話割込ボタンを5秒以上押して 通報停止状態にする機能が無効)	●				0
		あり (通話割込ボタンを5秒以上押して 通報停止状態にする機能が有効)					1
	F2ルート (自火報) 通報停止自動解除機能	なし (自動的に通報停止状態を解除しません。)	●				0
		あり (通報停止状態にしてから8時間 後に自動的に通報停止状態を 解除します。)					1
	F2ルート (自火報) 通報停止自動解除機能	なし (自動的に通報停止状態を解除しません。)	●				0
		あり (通報停止状態にしてから8時間 後に自動的に通報停止状態を 解除します。)					1

項目		設定内容	初期設定	テンキー操作			設定値記入欄
その他	通話割り込みタイミングの設定 (119番のみ)	即時通話に切り替え	●	3 6			0
		1メッセージ送出後通話に切り替え					1
	119番通報時の応答までの取消機能	あり	●	3 9			0
		なし					1
	逆信メッセージ「逆信してください。」の付加設定	あり (付加する)	●	4 0			0
		なし (付加しない)					1
	119番通報時の応答検出感度設定	音声検出感度を良くする (119通報時メッセージ送出されない場合)		2 6			0
		標準	●				1
	不定メッセージ送出設定	音声検出感度をにぶらせる (119通報時メッセージ送出が早すぎる場合)		3 7			2
		音声ロムバック (BGF93) (別売) の表面シールに「AおよびB」と記載されている場合					0
	119番通報時のメッセージの自動送信時間設定 (ダイヤル終了後から)	5秒	●	2 7			1
		10秒					0
	F1ルート短絡監視機能	なし (短絡監視を行わない)		4 1			0
		あり (短絡監視を行う)	●				1
	F2ルート短絡監視機能	なし (短絡監視を行わない)		4 2			0
		あり (短絡監視を行う)	●				1
	F1ルート断線監視機能	なし (断線監視を行わない)	●	4 3			0
		あり (断線監視を行う)					1
	F2ルート断線監視機能	なし (断線監視を行わない)	●	4 4			0
		あり (断線監視を行う)					1
	発信時の電話番号最終桁へのダイヤル付加機能 (PB発信時のみ有効)	なし	●	4 5			0
		ダイヤル「#」を付加する					1



- ① 119番からの声に反応しない場合、「音声検出感度を良くする」設定にしてください。
- ② 119番側で通報メッセージが、途中から聞こえる場合、「10秒」の設定にしてください。
- ③ 「AおよびB」と記載されている場合、この設定を行うと不定メッセージを2回繰り返して送ります。
- ④ 断線監視機能を「あり」に設定すると、断線監視動作を約1時間に1回の周期で行います。また、火災通報装置の起動時、登録／確認モードの終了時にも行います。その際、リレー動作音が「カチッ」と聞こえることがありますが、機器の故障ではありません。
- ⑤ ワイヤレス連動停止スイッチ (BGW9200) を接続し、火災通報装置の断線監視機能を「あり (断線監視を行う)」に設定するときには、ワイヤレス連動停止スイッチの取扱説明書を参照して、ワイヤレス連動停止スイッチの断線検知設定スイッチを「断線検知なし」に設定してください。(設定しないとワイヤレス連動停止スイッチが断線を誤検出する場合があります。)

13. 登録設定について

登録方法について

1 付属の専用キーで扉を開ける。

2 テンキーボタンの **M** を押す。
(登録/確認モード開始)

3 **0 1 ~ 4 7** のうち、登録
したいコード番号をテンキー
ボタンで押す。

●登録内容一覧表(18~19ページ) 参照
のこと。

4 テンキーボタンの **#** を押す。

5 登録するコード番号の設定内容
をテンキーボタンで押す。

●登録内容一覧表(18~19ページ) 参照
のこと。

6 テンキーボタンの **#** を押す。
(登録終了)

7 テンキーボタンの **E** を押す。
(登録/確認モード終了)

8 扉を閉め、付属の専用キーで
閉める。

1

差し込み
右へまわす。

専用キー
(付属)

テンキーボタン

M ...登録モードに使用
します。

E ...登録モード解除に
使用します。

...登録および消去
するときに使用しま
す。

***** ...確認に使用します。

1 ~ 0
...登録および確認を
入力するときに使用
します。

← → ↑ ↓
...使用しません。

2

3

4

5

6

7

8

専用キー (付属)

左へまわし、
抜く。

【例】「第1通報先(電話番号123-4567)、第2通報先(01-234-5678)」
「1ヵ所応答時点で通報終了(応答エンド)」 「一般通報時に通報ベル・確認ランプの出力なし」
「通報先が受話器を上げれば応答と判断」と登録する場合。

1 付属の専用キーで扉を開ける。

2 テンキーボタンの **M** を押す。
(登録/確認モードの開始)

3 テンキーボタン **0 1 # 1 2 3**
4 5 6 7 # を押す。

●第1通報先の電話番号の登録完了。

4 テンキーボタン **0 2 # 0 1 2**
3 4 5 6 7 8 # を押す。

●第2通報先の電話番号の登録完了。

5 テンキーボタン **1 7 # 1 #** を押す。

●「1ヵ所応答時点で通話終了」に登録完了。

注 登録しない場合は、すべての通報先が応答
するまで呼び出します。

6 テンキーボタン **1 8 # 0 #** を押す。

●「一般通報時に、通報ベル・確認ランプの
出力なし」に登録完了。

注 登録しない場合は、通報ベル・確認ランプ
の出力はします。

7 テンキーボタン **2 0 # 1 #** を押す。

●「通報先が受話器を上げれば応答と判断」
に登録完了。

注 登録しない場合は、通報先がメッセージを
開き終えないと応答とみなしません。

8 テンキーボタンの **E** を押す。
(登録/確認モードの終了)

9 扉を閉め、付属の専用キーで閉める。

1

差し込み
右へまわす。

専用キー
(付属)

テンキーボタン

M ...登録モードに使用
します。

E ...登録モード解除に
使用します。

...登録および消去
するときに使用しま
す。

***** ...確認に使用します。

1 ~ 0
...登録および確認を
入力するときに使用
します。

← → ↑ ↓
...使用しません。

2

3 ~ 7

8

9

専用キー (付属)

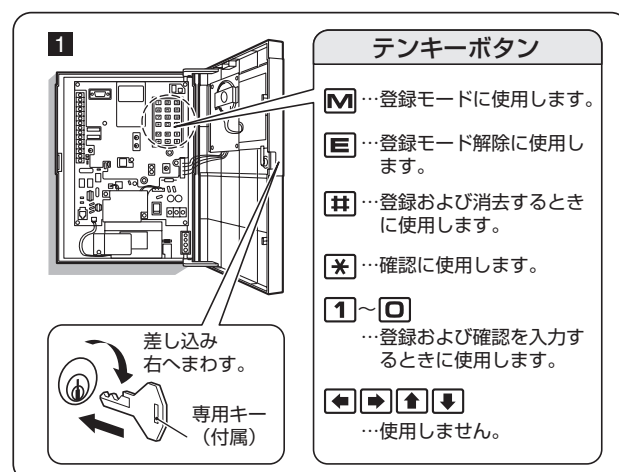
左へまわし、
抜く。

●登録内容、初期設定については、登録内容一覧表
(18~19ページ)を参照してください。

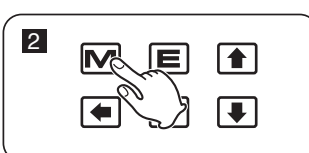
13.登録設定について

消去方法について

1 付属の専用キーで扉を開ける。

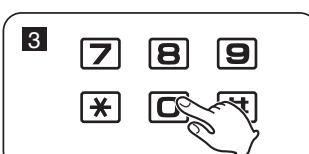


2 テンキーボタンの **M** を押す。

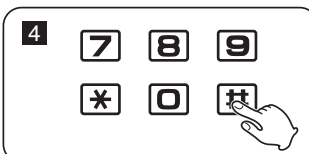


3 **01~16** のうち、消去したいコード番号をテンキーボタンで押す。

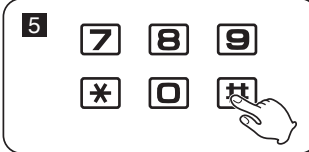
●登録内容一覧表(18~19ページ) 参照のこと。



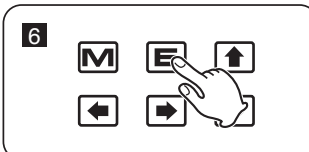
4 テンキーボタンの **#** を押す。



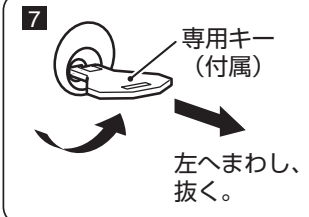
5 テンキーボタンの **#** を押す。 (消去終了)



6 テンキーボタンの **E** を押す。

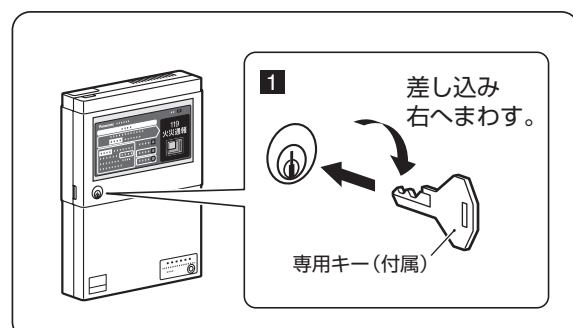


7 扉を閉め、付属の専用キーで閉める。



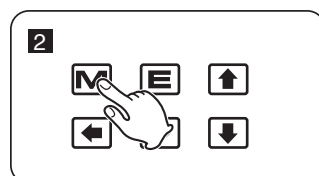
【例】一般通報先の5番目の電話番号を消去する場合

1 付属の専用キーで扉を開ける。

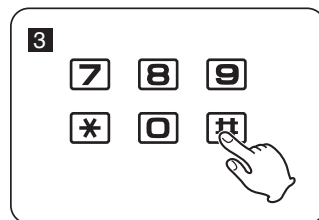


2 テンキーボタンの **M** を押す。

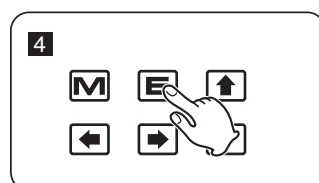
●登録内容一覧表(18~19ページ) 参照のこと。



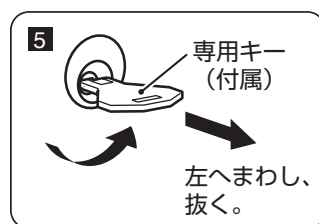
3 テンキーボタン **05##** を押す。



4 テンキーボタンの **E** を押す。

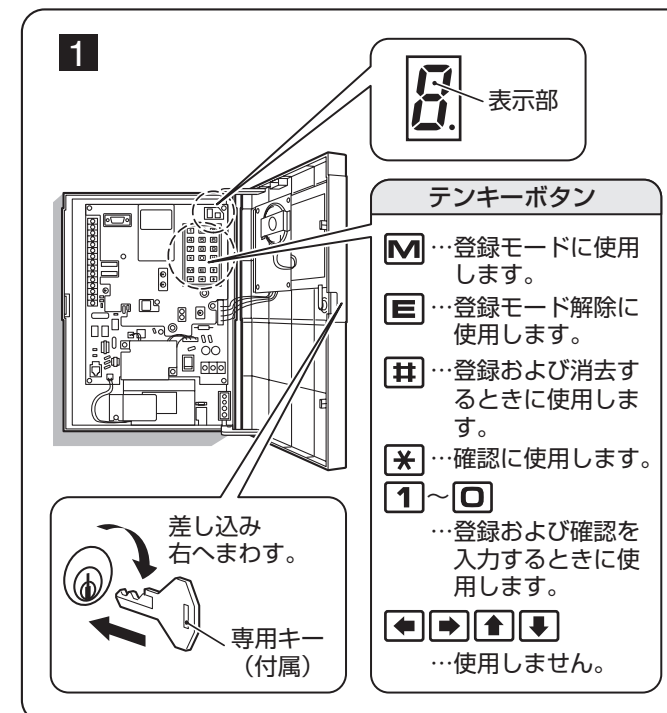


5 扉を閉め、付属の専用キーで閉める。

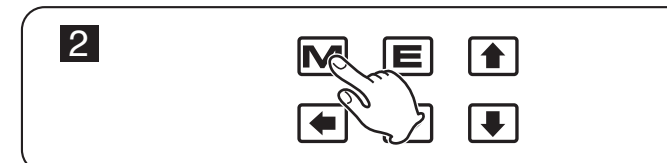


登録した内容を確認するには

1 付属の専用キーで扉を開ける。

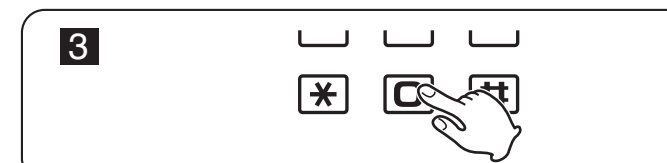


2 テンキーボタンの **M** を押す。 (登録/確認モード開始)

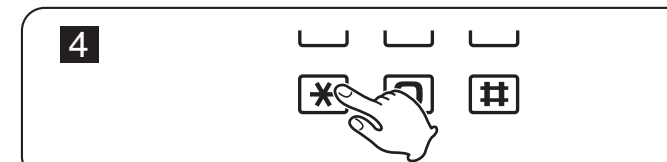


3 **01~47** のうち、確認したいコード番号をテンキーボタンで押す。

●登録内容一覧表(18~19ページ) 参照のこと。

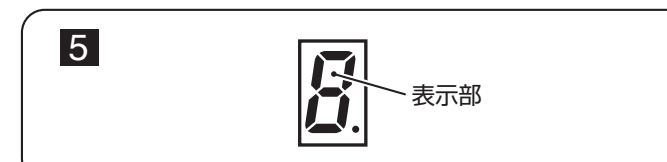


4 テンキーボタンの ***** を押す。

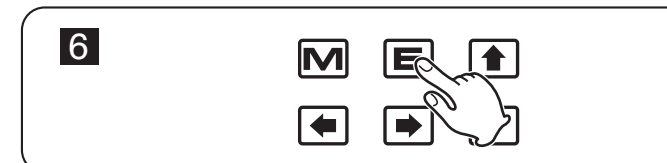


5 登録した内容を表示部に表示する。

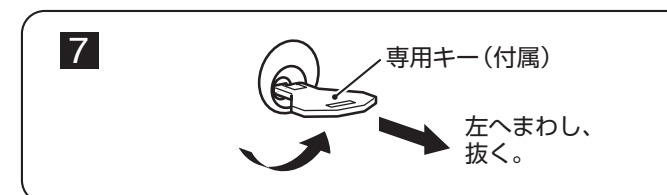
●登録内容一覧表(18~19ページ) 参照のこと。



6 テンキーボタンの **E** を押す。 (登録/確認モード終了)



7 扉を閉め、付属の専用キーで閉める。



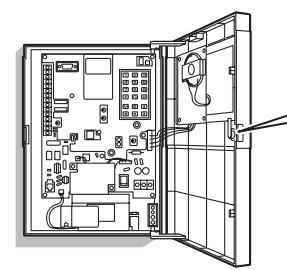
13. 登録設定について

全登録内容の初期化方法(工場出荷時に戻す場合)

※：「起動」「再起動」する場合は、火災通報装置に鉛蓄電池を接続しない状態で、交流電源スイッチを「OFF」「ON」してください。

- 1 付属の専用キーで扉を開ける。
- 2 テンキーボタンの **M** **↑** **9** を同時に押しながら、火災通報装置を起動(※)する。
- 3 表示部に「1.」が表示されたら、2 で押し続けているテンキーボタンをはなす。
 - このとき火災通報装置は特殊な動作モードになります。
- 4 しばらくすると初期化処理が完了し、表示部に結果を表示する。
- 5 初期化完了後、テンキーボタンは何も押さずに、火災通報装置を再起動(※)し、鉛蓄電池を接続する。
 - ※ 必ず、この再起動を実施してください。実施しないと、火災通報が動作しません。
- 6 初期設定から変更した登録内容が初期設定になっていることを確認してください。(23ページ参照)
- 7 扉を閉めて、付属の専用キーで閉める。

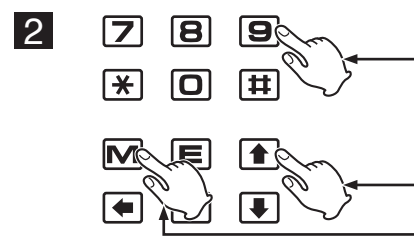
1



差し込み
右へまわす。

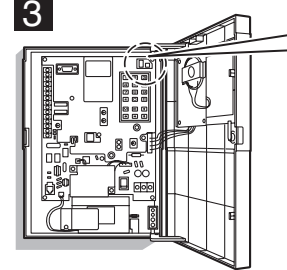
専用キー
(付属)

2



同時に押す。

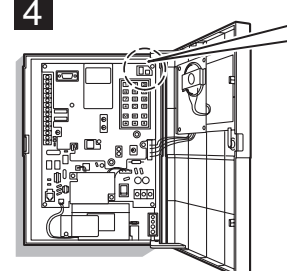
3



表示部

2 で押し続けている
テンキーボタンを離す。

4



●正常終了の場合
表示部

●異常終了の場合
表示部

7



専用キー (付属)

左へまわし、
抜く。

14. 通報内容の録音手続きの方法について

●付属の通報内容登録用紙に必要事項を記入して、発注してください。

火災通報装置には、別売の音声ロムパックが必要です。
音声ロムパックは必ず本紙の太枠内に必要事項をご記入のうえ発注ください。
ご記入内容に基づいて製造・音声録音後お届けします。

火災通報装置用音声ロムパック 通報内容登録用紙

■火災通報装置のご使用に際しては、消防署長に届出が必要です。通報内容は設置場所ごとに異なりますので通報内容を所轄消防署と打ち合わせのうえ、消防署指定の届出書にて届出をしてください。
■届出した通報内容につきましては、当社にて録音させていただきますので、録音内容を必ずこの指定フォーマットの太枠内に記入のうえご返送ください。
■通報内容は、固定フレーズと不定フレーズでできています。固定フレーズは、すでに録音済です。不定フレーズは、設置先ごとの内容を当社にて製造・録音させていただきます。音声録音に約2週間必要ですので、お早めにご手配ください。
●不定フレーズは8秒以内または、16秒以内になるようにフレーズ内容を作成してください。
※ご連絡いただいたフレーズが16秒以内に収まらない場合は、別途ご相談させていただきます。
■本体品番を確認してください。確認後、該当品番の□内に✓印をチェック、またはご記入ください。
※本体品番により、適合する音声ロムパック品番が異なります。

本体品番	☐ BGF1181 ☐ BGF1197 ☐ BGF1196 ☐ BGF11951 ☐ BGF1195 ☐ BGF11910
適合音声ロムパック品番	BGF93 BGF92 BGF91
本体設置場所	
工事店様名	〒
住所	TEL() —
代理店様名	TEL() —
パナソニック営業所	
音声ロムパック管理No.	※この管理No.は、お取引代理店様または、弊社営業所の記入欄です。

通報内容をご記入ください。(ふりがなも必ずご記入ください。数字にも必ずふりがなを付けてください。)

固定フレーズ	ビビビ ビビビ 火事です。火事です。または、ピンポン ピンポン 自動火災報知設備が作動しました。
不定フレーズ (火災通報装置 設置届出書の 通報内容)	(ふりがな) (ふりがな)
固定フレーズ	逆信してください。

固定フレーズ	録音済
不定フレーズ	(ふりがな) こちらは、かどまし かどま いちぜろよんはちばんち ばなそにつく です。 こちらは、門真市門真1048番地パナソニックです。 (ふりがな) こーどばんごうは、ぜろぜろいちばんです。 コード番号は、001番です。
固定フレーズ	録音済

【不定フレーズをご記入の際のご注意点】

- 通報元の連絡先(電話番号、コード番号など)は必ず入力が必要です。(地域によって入力内容が異なりますので、詳細は所轄の消防署に確認ください。)
- 固定フレーズは録音済ですので変更できません。
- 必ずふりがなをふってください。
- 数字にもふりがなをふってください。
- 数字の録音に指定がある場合は、それもふりがなで指示ください。
例) 5⇒ご or ごう、 2⇒に or にい など
(右の表をご参考いただき、数字のふりがなの記入をお願いします。)

※数字の読み方

数字	読み方	数字	読み方
1	いち	6	ろく
2	に・にい	7	なな
3	さん	8	はち
4	よん	9	く・きゅう
5	ご・ごう	0	ぜろ・まる・れい

■返送先 工事店様 → お取引代理店様 → パナソニック営業所

●返送前に下記の内容を確認してください。確認後、□内に✓印をチェック、またはご記入ください。

- 消防署と事前に打ち合わせをされましたか。
- ふりがながひらがなで記入されていますか。(番地などの数字も含みます。)
- 誤記および記入もれはありませんか。

15. 施工後の確認方法

- 火災通報装置は、下記の確認をしてください。
 - ① 火災通報ボタンの通報の動作確認 ……………取扱説明書17ページ参照
 - ② 自動火災報知設備の通報の動作確認 ……………取扱説明書18ページ参照
 - ③ 通報メッセージの確認 ……………取扱説明書19ページ参照
 - ④ 電池試験の方法 ……………取扱説明書20ページ参照

16. 故障時連絡先ラベルについて

- 取扱説明書の「故障時連絡先ラベルについて」(23ページ)を参照ください。

MEMO

MEMO

パナソニック株式会社 システム機器ビジネスユニット

〒514-8555 三重県津市藤方1668番地

電話 ☎ 0120-283338 FAX ☎ 0120-551626

© Panasonic Corporation 2016-2017

K0816-10617AB